受験生の心理と親の役割
- 自覚をもって受験勉強を -

開倫塾 塾長 林明夫

Q：高校入試に合格するかどうか心配で、勉強が手につきません。どうしたらよいでしょうか。

A：自分の進路を決定する生まれて初めての本格的な試験ですので、不安なのはよくわかります。

でも、不安なのはあなた一人だけではなく、受験生の全員なのです。

心配だ、心配だといくら悩んでも、成績は上がりません。悩む時間、心配する時間は一日〆分までと決めて、悩み、心配する暇があったら勉強しましょうね。

Q：不安を取り去るにはどうしたらよいのですか。

A：自分は受験生であるという自覚を強くもつことです。

これからは、自分の未来は自分で切り開く。自己責任、自助努力で生きる第一歩が高校入試だと考えましょう。

自分の行きたい高校を自分にとっての「一流校」と考え、「一流校」合格に向けて受験生としての自覚をもって毎日を大切に過ごしましょう。

Q：受験生をもつ親の役割とは何ですか。

A：義務教育はもうすぐ終わるのだから、これからは自己責任、自助努力が大切。自分のことは自分の力で考え、自分で考えて決めた高校には自分の力で合格しなさい。受験生としての自覚を本人に促すことが親の役割と考えます。

Q：親としてした方がよいこと、しない方がよいことはありますか。

A：お子様が勉強中は、TVの音を少し小さ目にしたり、余り大きな声で歓談することはお控えになることをお勧めします。

できれば、静かに読書をしたり、新聞などをお読みになり、親も読書により思慮深さを、新聞を読み批判的思考能力を大人として身につける姿を、受験生に見せることをお勧めします。

勉強は高校合格まですればよい、あとは遊んでよいなどと決して口にしないようお願いします。

怠け者には福は来ない。今やっている勉強は高校入学後も役に立つし、社会に出てからはもっと役に立つ。しっかり受験勉強をするようにと励ますのも親の役割と考えます。